

駿河湾の深海魚（9）
キュウリエソ（その1）
久保田 正・佐藤 武

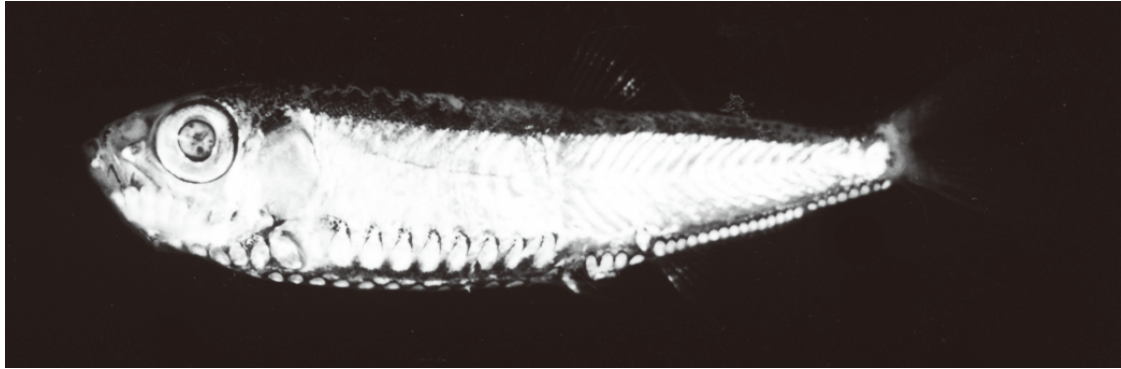


図 1. キュウリエソ BL : 37.3 mm 2001 年 2 月 20 日 三保海岸打ち上げ

キュウリエソ *Maurolicus muelleri* は、ワニトカゲギス目、ムネエソ科、キュウリエソ属に含まれる1種であり、世界の大洋の熱帯から温帯域に分布する中・深層性魚類のコスモポリタン種です（図1）。主な分布域は、ノルウエー沖、オーストラリア～ニュージーランド海域、地中海、アフリカ南西沖などです。日本近海では、東シナ海、日本海、駿河湾のほか琉球列島近海や小笠原諸島近海の黒潮暖流域から知られています。特に日本海では、中・深層性魚類マイクロネクトン（小型遊泳生物）として周年に亘って生息している唯一の種類です。約1年で成熟し、体長約70mmまで成長し、水深約50～300mに生息しています。

日本近海以外の海域からは、水深150～1,317mから知られています。体色は、側面や腹面が銀白色で背面が暗褐色であり、眼は大きく、体側の下部に発光器を有しています。鮮魚からは和名の由来となっているキュウリと同じような独特な香りがします。

本属には世界中から本種を含め10種以上が知られていますが、日本近海からはこの1種が生息しています。英名は、Japanese pearlsides といいます。本種は、1915(大正4)年に石川千代松博士が富山県魚津産（日本海）の標本をもとに新種 (*M. japonicus*) として発表されましたが、現在ではその有効性が失われてその和名だけが残っています。駿河湾では時々サクラエビ漁でエビと混獲されることがありますが、日本海におけるほど優先する魚類マイクロネクトン種ではありません。



図 2. 三保海岸にまとめて打ち上げられたキュウリエソ（標本の一部）2003 年 12 月 24 日

また、本種は日本各地の海岸に度々打ち上げられます。駿河湾の三保海岸でも観察されています。2003～2005年の毎年11月から翌年の4月までの冬季を中心とした46日間に海岸に打ち上げられた664個体（体長23.1～44.0mm）を採集しました（図2）。三保海岸の場合は、海底地形、湧昇流、北西の季節風などの条件がからみ合って打ち上げられます。

一方、日本海では島根県隠岐諸島の隠岐の島町の海岸に2012年2月下旬に約500mにわたって体長20～50mmの個体が大量に（数10万～数100万個体の見積もり）打ち上げられた例があります。あまりにも大量だったため天変地異の兆しではとテレビや新聞に取り上げられました。また同じく同諸島の西の島町でも2002年春季に多くの個体が打ち上がった記録があります。日本海の場合は、駿河湾とは異なり季節風により海岸に吹き寄せられた寄り現象によるものです。